

イージス・アショアの電波実測調査に係る防衛省による説明

秋田県総務部総務課

1 日 時

平成31年1月28日（月） 17:00～17:30

2 場 所

秋田県庁第一応接室

3 説明者

伊藤東北防衛局長、加藤情報通信課長

4 応対者

佐竹知事、名越総務部長、神部総務部次長

5 発言内容

（伊藤東北防衛局長、加藤情報通信課長）

説明資料に基づき説明

（知事）

メインビームは上に照射されるので、ある意味でサイドローブの調査ということですか。その場合に2メートルということは、人間の頭の高さだが、（図を書いて示しながら）水平という概念でいくと、人が立っている高さもあると思いますが、2メートルよりもう少し上の、ある程度の常識的な範囲で、それでもよいのではないのですか。

（情報通信課長）

実際、標高2メートルということではなく、実際の測定ポイントの標高プラス2メートルということでございます。

（知事）

（図を書いて示しながら）例えばここから発射して、メインビームはこうなって、サイドローブがこのように出るとして、例えばここでは出ないけれども、こっちでは出る可能性はあるわけです。ですからこれが2メートルとそういうふうに捉えてもいいのではないのですか。

（情報通信課長）

最も影響の出そうな所で測らなければいけないと思いますので、その他別のポイントについて検討するということで確実に測れるポイントで検討したいと考えております。

(知事)

(図を書いて示しながら) 水平でもレーダーが高い所からだとも2メートルといってもこういうふうになる。地表ではまず出ないんだよね、普通。サイドローブは発信地からこうは電波が出ませんから。こういう幅でこう広がってきますから、ある程度高低差ありますから。それから、シミュレーションの最初の段階の、シミュレーションは最初にやるんですか。

(情報通信課長)

今回の調査におきましてもシミュレーションをやります。

(知事)

後でこれがシミュレーションと言ってもね。先にシミュレーションの結果を見せてもらっておいて、後で実測値と。一般的に、湿気や空気中のチリで減衰しますからね。シミュレーションは完全な乾燥の空気、電波が一番遮断するものが無い状況のシミュレーションで、雪の中でやるとぐっと減衰する。ですからシミュレーションより大きくなることはないと思いますが、そこは最初にシミュレーションの結果を見せてもらって、実測と合わせる。もう一つは、市長が言ったことは最もだと思うが、演習地内の外で、一番いいのは演習地の境においても、自然由来というか周辺から出ている電波というのがありますから、一定の精密に調べますと出るわけです。プラスその分があるかどうかという、そういうことでしょう。そうしますとプラスの分があった時に外でも調査するという。逆に言いますと、境界地で感知できないとすれば、原理的に外ではまったく影響ないということになりますけれども、もし仮に境界地で少し出ているとすると、外にも、もう少し遠くまで飛んでいるということになりますから、そのへんも少し考えた方がよいのかなと思う。

あと、SSRとは出力が違いますので、そこはね、要するにあくまでもシミュレーションと実測について差が無いという、そういうふうなイメージの調査と書いていますから、実際の時はだぶん総務省の防護指針で、微量であっても調査してそれで承認ができるでしょう。SSRはいつできるのですか。

(東北防衛局長)

正確なところは承知しておりません。まだ確認できておりません。

(知事)

そこらへんがね。それとSSRについて本当の情報かどうか分かりませんが、ニュースなんかで日本との共同研究でなくて、早くするためにそれをやめて、日本の部品を使わないというそういう話が出て、国会で問題になっているとマスコミにでていま

すけれども。そこいらへんがね、相当先になるんでしょうね。

あと、レーダーについては、私はある程度分かるんですけども、レーダーのオペレーション、これは別に軍事機密でもなんでもないし、一般的な防衛用のレーダーの使い方というのはいくつかの種類があって、常時探索と、後は常時探索をしながら、発射の兆候あるいは発射された時に、例えば他のレーダー基地からのデータリンクで、その時に初めてその方向に出力を上げて、普段はアイドリング状態という、普通はそういう使い方が一般的だと思うんです。そこらへんが、一般の人は分からないんですね。SSRの端子、発振子は窒化カリウム、あれはそんなに電圧をかけておけば、すぐにダメになる。寿命って短いですよ。フェーズドアレイレーダーの発振子の寿命は非常に短いんですよ。フルに電圧をかけると。ですからそんなに常時、365日24時間照射する運用はしないと思います。そこら辺の説明を、これは別に軍事機密でもなんでもありません。常識でしょう。そこを一般の方に常時出していけばいい。これは気象観測レーダーとは違って、ある意味で、今回の韓国のいわゆるロックオン、あれとやや似ている、あれよりももう少し探索は入るけれども、一部管制レーダーの、ミサイルの誘導のこれを捕まえるという、事前にその方向に照射はするけれども、いつもやっているわけではないんですよ。これをやったら、防衛省で端子を取り替える予算が無茶苦茶高くつくでしょう。ですから、もう少し実体的な運用の、そういう説明もないと、なかなか理解は出来ないんじゃないのかなと思います。あとは、実測するときに公開できるんですか。

(情報通信課長)

公開する方向で調整しております。

(東北防衛局長)

シミュレーションのデータを事前に提示するということで、穂積市長にもお話しております。

(知事)

実測値はどう。

(情報通信課長)

実測値は、測定器で使っている周波数となると、そのままはお見せできないのですが、パソコンで計算したもので、測定した数値、 mW/cm^2 の電波の強度は出せます。

(知事)

電界強度は出るでしょう。それがないと比べようがありませんから。周波数帯とパルスの特性、これは軍事機密でしょうけれども、電界強度はこれがないと比べることができない。

(情報通信課長)

正にそこを確認していただくというつもりです。そこはしかるべき対応をしていきたいと考えております。

(知事)

長丁場だね。一般の家を建てるのと違って、実物がいつできるかというそこら辺と、色んな面で今日のニュースにも出ていましたけれども、米軍との運用の、例えばDWE SとかBMDとか、色々出てきていますから。皆さん方は言っていないけれども、ニュースに出るわけですね。アメリカからも出るんですね。そうするとこれってどういう関係があるんだという、そういうところをどういうふうに説明するのか。そこら辺の説明が、これからやっぱり出てくると思います。一方で、DWE Sの時に、分散加重交戦スキーム、あの時に国会で、イージス・アショアとどういうリンクするといった答弁をやっているんですね。ああいうものと、どのようにリンクするのか、そのような説明を求められる可能性もあるんですね。単独で動くわけではないですから。

(東北防衛局長)

ミサイル防衛につきましては、早期警戒情報が極めて重要でありますので、日米間で情報を共有する中で、イージス・アショアにつきましては、従来から御説明申し上げているとおり、正に日本、我が国を守る為に配備を検討しているところであります。

(知事)

極東に展開する、男鹿も含めて日本国内の自衛隊のレーダー基地とイージス艦などの艦艇レーダー、それから哨戒機、或いは偵察衛星、そういうものとリンクしながら、どのように探知して、最終的にどれで対応していくかは全体のスキームの中で決めるという。ですから、これだけが単独で動くわけじゃないですね。そういう説明もしないと、ここだけが守る基地だと、そのように捉えられる。市ヶ谷だってPAC-3があるのだから。そういった全体のスキームの中で説明すべきでしょう。

(東北防衛局長)

正に防衛省のレーダーはいろんなところにございますので、当然、そうしたレーダーは、リンクしてネットワークに繋げて対応する形になります。知事のおっしゃるとおりでございます。

(知事)

説明を複雑にする必要はないけれども、今は一般の方にも情報はいっぱい入りますから、それを皆様方が伏せるわけではないけれども、そもそも論のスキームに触れないと、何となく隠しているように見られる。

(東北防衛局長)

防衛白書ですとか、昨年末の防衛計画の大綱などで広報させていただいているところ

でありますけれども、引き続き今後もしっかりと対応してまいりたいと思います。

(知事)

私どもも、電波暗室とかあって、電波測定をやっておりますから、場合によっては、専門的な知識を持った人に立ち会わせるかもしれません。

日時が決まるのはいつ頃ですか。

(情報通信課長)

これからですが、来月中旬ぐらいまでにはと考えております。

(知事)

天候もありますからね。吹雪で湿り雪が降ると何もできませんからね。なるべく晴れた日がいいとは思いますが。雨が降ると完全に減衰しますから。

(情報通信課長)

そのようなことがないように注意しながら実施していくことを検討いたします。

(知事)

色んな不安だとか疑問点、こちらからお話しするばかりではなくて、皆様方から、こういうところを丁寧に説明するとか、これは丁寧にやるとか、そういうところをこちらから言い出さなくても、皆さん方が気がつく範囲で、皆様方がこっちに座っていると思って、気がつく範囲でそういう影響を、こういうものもやるとか、実験をするとか、こういうものは住民に何回も説明するとか、そういうことは、私どもから言うよりも、皆さん方が自発的にやってもらったほうが、それで住民の理解が進むかどうかは別にして、そういう姿勢が必要ではないかと思います。そこはよろしくお願いします。

(東北防衛局長)

本日はありがとうございました。

以上